

(案)

「教学マネジメント指針」(追補)の作成について

令和2年1月に策定された「教学マネジメント指針」を踏まえ、各大学において3つの方針を起点とした教学マネジメントの確立に取り組んでいるところ。

その後、令和3年7月に「大学入試のあり方に関する検討会議 提言」(以下「提言」という。)が策定されたこと、また現在、教育未来創造会議や大学振興部会においても、同指針の充実が求められていることを踏まえ、教学マネジメントの確立に当たって重要な役割を有する入学者選抜について同指針の「追補」を作成する。

【作成の方針】

修業年限内で教育活動に用いることができる学内及び学生の資源は有限である。こうした観点も踏まえれば、高等学校教育と円滑な接続を図りつつ、学生が「教育課程編成・実施の方針」(CP)に基づく教育課程を履修し「卒業認定・学位授与の方針」(DP)に定められた学修目標を達成できるようにするためには、各大学が、「入学者受入の方針」(AP)を適切に策定し、入学者選抜の段階において、当該大学で学び、卒業するために必要な能力・適性等を備えた人材を見いだすことが必要である。

そこで、過去の中教審答申や提言で示されている大学入試改革に関する内容等を、教学マネジメントの確立という観点から再整理することに加え、近年求められている諸課題に大学が実情に応じて適切に対応できるような内容を盛り込むこととしたい。

分量は、教学マネジメント指針の他の項目とのバランスを勘案して、最大でも10ページ程度を想定している。

(想定される項目の例)

- ・大学入学者選抜の原則と「入学者受入の方針」について
- ・「入学者受入の方針」を踏まえた大学入学者選抜について
- ・高等学校における教育との適切な接続
- ・学生の入学後の状況等を踏まえた適切な点検・評価の実施 等

【スケジュール】

9月7日 大学分科会

以降、文部科学省において作成に着手

11月以降の大学分科会において指針(追補)(案)を提示し、審議

(並行して大学入学者選抜協議会に対しても報告)

年度内 指針(追補)の策定

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（令和4年5月10日教育未来創造会議第一次提言）（抄）

Ⅲ. 具体的方策

1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化

(2) 学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受入れ強化

人文・社会科学の厚みのある「知」の蓄積を図るとともに、自然科学の「知」との融合などにより、あらゆる分野の知見を総合的に活用し社会課題への的確な対応を図る「総合知」の創出・活用を目指し、STEAM教育を強化し、文理横断教育を推進する。

このため、大学入学者選抜における文理横断の観点からの出題科目や、学部単位の大学入学者選抜の在り方の見直しを図るとともに、「入口（大学入学時）での質確保」から、大学修了時までに必要な資質能力を身に付けさせ、厳格な卒業認定を行う「出口での質保証」への転換をより一層進める。

（中略）。

<具体的取組>

①STEAM教育の強化・文理横断による総合知創出

- ・ 人文・社会科学系における理系科目や、自然科学系における文系科目の設定といった、大学入学者選抜における文理横断の観点からの出題科目の見直しを促進する。
- ・ 文理横断による総合知の創出を図るための論理的思考力と規範的判断力を磨き、課題発見・解決力、未来社会の構想・設計力を身に付けるリベラルアーツ教育の強化や、ダブルメジャー、メジャー・マイナーなどの複数専攻の学修を促進する。
- ・ 学部等の枠を超えた大学入学者選抜の実施などによる入学後の専攻分野の決定（レイトスペシャライゼーション）や、入学後の専攻分野の転換、編入学など、学生が大学での学修の中で専攻分野を決定したり、専攻分野の転換をより容易にしたりする等の複線的・多面的な学びの実現を図る。
- ・ 全学的なデジタルリテラシーの向上に向けた基礎素養としてのデータサイエンス等の履修促進や既存の理工系大学等における現職・実務家教員向けのリスキル・プログラムの開設を支援する。その際、オンラインを積極的に活用して優れた授業を活用する単位互換や研修を促進する。
- ・ こうした総合知を育成するための入試科目の見直し、入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学び、全学的なデータサイエンス教育等について、「教学マネジメント指針」の見直しや、設置認可審査や修学支援新制度の機関要件の審査での反映、積極的に取り組む大学の好事例の収集・展開、基盤的経費の配分におけるメリハリ付けによるインセンティブの付与に取り組むなど、学生の学びの充実に向けた実効性ある方策を講ずる。（以下略）